

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1834~1908年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

じつぎょうか
実業家



ゆかりのある場所:

いそざきみんきぎねんかん
磯崎眠亀記念館



いそざき みんき 磯崎 眠亀

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



いそざきみんき てんぼう ねん いま くらしきしちややまち おりものや こじまけ いえ う
磯崎眠亀は天保5（1834）年、今の倉敷市茶屋町の織物屋・児島屋の家に生まれました。
はや ふぼ な みんき りょうしゅ とがわし えど やしき つか
早くに父母を亡くした眠亀は、領主である戸川氏の江戸の屋敷で仕えることになったもの
せんぞ う つ かいただきまし そうぞうせい みんき こころ ゆ ふたた おりもの せかい ま もど
の、先祖から受け継がれた開拓魂と創造性が眠亀の心を揺るがし、再び織物の世界へ舞い戻
りました。

てんしよく え みんき しょうき かいりょう はつめい つぎつぎ あたら う だ
天職を得た眠亀は、織機の改良や発明によって、次々と新しいものを生み出していました。
こうしたなか、ウィーン万国博覧会（1873年開催）に出品されたセイロン産の竜鬚蕈（花
いっしゅ み おかやまとくさん くさ つか せいこうちみつ しきもの いっしゅ
ござの一種）を見て、岡山特産のい草を使った精巧緻密なむしろ（敷物の一種）をつくろう
おも た めいじ ねん くらう すえ はな ぎんかんえん はつめい せいこう
と思い立ち、明治11（1878）年、苦勞の末に花むしろ「錦莞蕈」の発明に成功しました。
しかし、「錦莞蕈」は高価すぎて国内ではあまり売れませんでした、日本の輸出品として
じゅうようゆしゅつひんもく おかやまけん だいひょうてき とくさんひん
重要輸出品目になり岡山県の代表的な特産品になりました。

ぎじゅつほご はいりょ にほん とっきょせいど きそ
そのため技術保護にも配慮し、日本の特許制度の基礎をつくることにもつながっています。
さんぎょう しほんしゅぎ いくせい こっか ぎんだいか すいしん ひょうか めいじ
産業、資本主義の育成により国家の近代化を推進したことが評価され、明治30（1897）
ねん りよくじゅほうしょう じゅしょう
年に緑綬褒章を受章しました。

せいねんじぶん すじ とお くせ がいくしょうにん ひれつ しょうほう ひとりましようめん たたか
青年時分から筋を通す癖があり、外国商人の卑劣な商法にただ一人真正面から戦ったこと
があります。

かいしゅう きゅうたく しょうわ ねん いそざきみんきぎねんかん かいかん へいせい
改修された旧宅は、昭和63（1988）年、磯崎眠亀記念館として開館し、平成12（2
ねん くに とうろくゆうけいぶんかざいけんぞうぶつ してい
000）年に国の登録有形文化財建造物に指定されました。